

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
<b>治風剂 平熄内風剂 10</b>		
<p>しちもつこうかとう 七物 降下湯</p>	<p>滋陰養血・熄風</p>	<p>当帰・川芎・白芍・熟地黄・黄耆各3g・釣藤鈎4g・黄柏2g 水煎し服用する。</p>
<p>修琴堂</p>	<p>主治は、血虚生風による頭のふらつき、めまい感、筋肉のひきつり、舌質は淡、脈は細などの症候である。老人、慢性病、その他で陰血が暗耗し、血虚による肝陽上亢や、不養筋のために内風が生じふらつき、めまい感、筋肉のひきつりなどがみられる。舌質が淡、脈が細では虚を表わし、このほかにも皮膚につやがない、爪がもろい、しびれ感、月経周期延長、経血量が少ないなどの血虚の症候を伴う。                      四物湯（当帰・白芍・熟地黄・川芎）で滋陰補血、柔肝し、補気の黄耆は「気よく血を生ず」の効果によって補血を強め、平肝熄風の釣藤鈎で風動を鎮める。黄柏は陰血不足による内熱を清する補佐薬である。                      日本での保険適応効能、効果                      身体虚弱の傾向のあるものの次の諸症；高血圧に伴う随伴症状（のぼせ、肩こり、耳なり、頭痛）</p>	